



家庭でできる経口補水療法

1月中旬から市内の保育所で感染性胃腸炎が流行しています。ノロウイルスの感染によるものと思われます。突然の嘔吐で始まり下痢を伴うようになり、1日10回以上の水様便が出現することもあります。家族内感染もよくみられます。

そんな時、初期治療として家庭で経口補水療法を行ってみましょう！

経口補水液を少量ずつ頻回に与えて脱水を予防する治療法です。経口補水液(ORS)とは水と電解質と糖分が一定の割合で配合された飲み物で、市販のものとしてOS-1とアクアライトORSがあります。吐き気が落ち着いたら、まずスプーンやペットボトルのキャップ1杯程度の5mlのORSを5分おきに飲ませます。吐かなければ、投与間隔を短くして1回量を10ml、15mlと増やしていきましょう。途中で吐いたら、20～30分待ってもう一度5mlから再開してください。1時間で120mlを目標にするとよいでしょう。

決して一気に飲みせず、ちびちびと与えることがコツです。ゼリータイプのOS-1は塩味を感じにくいので、こちらを試してみるといいかもしれません。

感染性胃腸炎・いつから登園できる？

嘔吐と下痢の時に登園を控えるのが望ましい時とは？(厚労省の感染症対策ガイドラインより)

【嘔吐】

- ・ 24時間以内に複数回の嘔吐がある。
- ・ 食欲がなく、水分も欲しがらない。
- ・ 機嫌が悪く元気がない。

【下痢】

- ・ 24時間以内に複数回の水様便がある。
- ・ 食事や水分を摂るとその刺激で下痢をする。
- ・ 朝、排尿がない、機嫌が悪く元気がない。

保育所での集団生活に適應できるレベルに回復していることが大切です



1月の感染症症情報

昨年の12月末からA型インフルエンザが開始しました。1月第1週から2週にかけて増加し、コロナとの同時流行の兆しかと思われましたが、その後少なくなりました。小児の新型コロナも1月前半は多かったものの、後半からは減少に転じてきています。

1月中旬以降、コロナとインフルに代わって感染性胃腸炎が増加してきました。



1月の利用状況

1月の利用延べ人数は54人で、1日の平均利用人数は2.8人でした。年齢別では3歳児が16人で最も多く、次いで1歳児の13人でした。疾患別では、急性上気道炎が17人で最も多く、次いで感染性胃腸炎9人の順でした。その他、ヒトメタニューモウイルス感染症、A型インフルエンザ、RSV感染症などの入室がありました。

1月は、コロナ以外に上記のようなさまざまな感染症が流行したため、感染症ごとにお部屋を割り振りするのに苦慮しました。どうしても入室時の抗原検査が多くなり、お子様には負担をかけてしましますが、室内感染を防ぐためですので、なにとぞご理解、ご協力お願いいたします。